

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス SOALA宇美校		
○保護者評価実施期間	2025年12月3日 ～ 2025年12月22日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2025年12月23日 ～ 2025年12月27日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインに沿った内容、5領域別に設定しており、計画書に沿った支援の提供が行えるよう環境を整えています。	活動プログラムに合わせて、理学療法士や心理担当職員による運動・情緒面の支援を取り入れています。子ども一人ひとりの発達段階や特性を踏まえ、5領域を意識した活動を計画的に実施しており支援内容を新聞等に掲示・配布することで、支援の目的やねらいを周知しています。	個別支援計画との照らし合わせを適宜行い、お子様の成長や変化に応じてより良い支援を検討・試行していきます。活動プログラムにおいて会議を行い、見直し、改善を図るとともに、保護者様へ活動の成果が伝わる工夫を継続してまいります。
2	保護者アンケートや日々のやりとりを通して、親身に寄り添う姿勢が伝わるように、お子様の日々のご様子を丁寧にお伝えしております。家族支援プログラム（ペアレントトレーニング・保護者参加型イベント）等の情報提供の場、ご家族様同士の交流の場を設けています。	送迎や面談時において保護者様との対話の時間を意識的に設けています。その中でお子様の様子を丁寧に伝え、保護者の不安や悩みに寄り添った対応を行っております。職員間でも会議を重ね、継続的に一貫した支援の提供に繋がるよう努めています。毎月2回以上の保護者参加型イベント（そあらのひろば）を開催しております。	送迎や面談時での対話の充実を図り、より一層保護者様が安心して相談できる体制作りを進めてまいります。保護者様同士の繋がりがご支援している地域に開けた活動である認識を深め、周知をしてまいります。
3	活動プログラムを固定化せず、五感に触れる支援をご準備しております。子どもたちが楽しく通える環境を整えています。	工作や運動、季節の行事など、子どもたちが主体的に参加できる活動を計画、実施しております。成功体験を大切に、子どもたち同士の関わりや達成感を育む支援提供を意識的に取り入れています。	お子様自身の「やってみたい」という気持ちを反映できるよう、活動内容の選択肢を増やし、自己決定の機会を意識した支援を提供してまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	様々な地域の方と活動する機会をより積極的に図ってまいります。	活動場所を戸外に移し地域の方と触れ合う機会にはございましたが、活動時間や場所（公共施設）が限定的でございました。計画的な実施やご家族への周知を増やしていくことで伝わりやすくなると分析いたしました。	地域の社会資源を有効に活用し、地域との交流が促進される活動を調整していきます。また、所属する自立支援協議会や児童部会への継続的な参加をし、地域に根差した活動への参画を担ってまいります。
2	生活空間を、より分かりやすく構造化された空間となるよう環境を整えます。	生活空間の中に写真や文字を取り入れることで分かりやすく構造化しておりましたが、ご家族様が実際に見る機会の少なさにより周知が行き届いていない部分でございました。また、バリアフリー化は必要とする児童が現在いないこともあり環境が整っていない部分がありました。対策を見直し、全体的な周知を図ってまいります。	保護者様参加型イベントを通して、生活空間を実際に見る機会を増やし、ステップをおくなど対応している箇所等の環境設備についても周知してまいります。保護者様からのご意見を募集し、対策を実施いたします。お子様に適した環境となるよう努め、目に見える形で安心感としてご提供してまいります。
3	保護者参加型の活動や行事の際、活動スペースが限られており、十分な環境を提供できていない場面があるため活動しやすい環境を整えます。	事業所の安全性や目の届きやすさを重視した環境構成となっているため、人数が増えた際に手狭に感じられることがございました。対策を考え、環境を整えていきます。	事業所内の活動場所を分けたり、近隣施設や公共スペースの活用を検討したりと、活動内容や参加人数に応じた場所選びを行うことで、より快適で参加しやすい環境づくりを進めてまいります。